

令和7年度児童・生徒体力・運動能力等調査の結果について

報告内容

令和7年度児童・生徒体力・運動能力等調査の結果について報告します。

1 調査概要

(1) 実施期間 令和7年6月中旬から下旬

(2) 対象 小学校5年生及び中学校2年生

(3) 内容

① 小学校5年生

握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・20mシャトルラン・50m走・立ち幅とび・ソフトボール投げ

② 中学校2年生

握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走／20mシャトルラン・50m走・立ち幅とび・ハンドボール投げ

※持久走・20mシャトルランはいずれかを選択。

2 調査結果 青…国・都平均を上回っている 赤…国・都平均を下回っている

種目ごとの単位は、握力(kg)、上体起こし(回)、長座体前屈(cm)、反復横とび(点)、持久走(秒)、20mシャトルラン(回)、50m走(秒)、立ち幅とび(cm)、ソフトボール・ハンドボール投げ(m)で示しております。なお、数値については、小数第二位を四捨五入して表記しております。

(1) 小学校5年生

① 男子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ
港区平均	16.53	20.71	36.06	43.95	50.03	9.22	157.41	21.31
都平均	15.93	19.86	34.23	40.86	46.40	9.39	150.94	20.25
国平均	15.97	19.45	33.88	40.90	47.95	9.46	150.96	21.06

・8種目中全種目で国・都平均を上回っている。(昨年度より4種目増加)  
 ・特に、反復横跳びでは、19校中18校が国・都平均を上回っている。  
 ・ソフトボール投げは2年ぶりに国・都平均を上回った。全国平均に比べ約0.3ポイント、都平均に比べ約1.1ポイントそれぞれ高い。19校中14校が国・都平均を上回っている。

② 女子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ
港区平均	15.93	19.2	40.18	40.68	34.74	9.66	148.25	12.08
都平均	15.45	18.72	38.69	38.61	34.36	9.71	142.59	12.17
国平均	15.61	18.36	38.17	38.71	36.87	9.77	142.39	13.10

・8種目中6種目で国・都平均を上回っている。(昨年度より2種目増加)  
 ・特に、反復横跳びでは、19校中15校が国・都平均を上回っている。  
 ・ソフトボール投げでは、国平均に比べ約1ポイント低く、都平均に比べ約0.6ポイント低い。19校中10校が国・都平均を下回っている。

## (2) 中学校2年生

### ① 男子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	※持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
港区平均	29.66	26.64	45.52	53.6	418.94	79.28	8.01	202.93	20.09
都平均	28.74	25.99	43.94	51.98	412.83	77.31	8.05	198.17	20.82
国平均	28.91	25.99	44.98	51.63	410.24	78.59	8.00	197.50	20.66

- ・ 8種目中6種目で国・都平均を上回っている。(昨年度より6種目増加)
- ・ 特に立ち幅跳びでは、国平均に比べ約5.4ポイント、都平均に比べ約4.8ポイントそれぞれ高い。10校中9校が国・都平均を上回っている。
- ・ ソフトボール投げでは、国平均に比べ約0.6ポイント低く、都平均に比べ約0.7ポイント低い。10校中7校が国・都平均を下回っている。

### ② 女子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	※持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
港区平均	23.62	22.28	48.14	47.59	325.79	50.35	9.02	169.30	11.46
都平均	22.89	21.91	45.93	45.96	311.62	50.10	9.00	166.66	12.15
国平均	23.12	21.62	46.97	45.77	310.35	50.44	8.97	166.39	12.36

- ・ 8種目中5種目で国・都平均を上回っている。(昨年度より5種目増加)
- ・ 特に長座体前屈では、国平均に比べ約1.2ポイント、都平均に比べ約2.2ポイントそれぞれ高い。10校中8校が国・都平均を上回っている。
- ・ ソフトボール投げでは、国平均に比べ0.9ポイント低く、都平均に比べ約0.7ポイント低い。10校中7校が国・都平均を下回っている。

## 3 考察

令和7年度の調査では、港区の小学校5年生男子においては全種目で国・都の平均を上回るほか、小学校5年生女子、中学校2年男女ともに国・都の平均を上回る種目が2～6種目増加した。この結果から、日々の体育授業の改善を基盤にボルダリングウォールの活用、区連合行事等、港区学校教育推進計画の重点事業の取組の一つである「健康な体づくり」を推進してきた成果が伺える。

一方で、小学校5年男子以外のボール投げが、国・都平均に比べ低い傾向が続いている。各学校では、「投げ方の指導を重点的に行うこと」、特に「斜め45度」の視覚的指導や基本動作「ステップ」、「ツイスト」、「リリース」の意識付け等が必要である。

## 4 今後に向けて

教育委員会は、特に投力向上に向け、各校が以下の内容を実践するよう取り組ませる。

### (1) 体育授業の改善・充実（実践例）

「斜め45度」の視覚化においては、例えば45度に該当する校舎の3階の窓や校庭の木々などの具体物を示して視覚化させて投げさせることや、中学生においては「力学」を意識させるために「タオルスロー（シャドースロー）」を行うことで効率よく力を伝える運動性を身につけさせる実践が大切である。また、学習者用端末を活用し、自分の動きの質が向上していることを実感できるようにする。

### (2) 「一校一取組運動」の実施

調査結果を踏まえ、朝や休み時間等を活用し、スポンジボールを活用したキャッチボールや的あて等、特色ある「一校一取組運動」に取り組み、ボールに触れる機会を十分に確保できるようにする。

### (3) スポーツ関係団体、専門家等との連携

運動機会の創出のために、スポーツ関係団体や専門家を外部講師として招聘し、投げ方教室を行うことで、「投げること」への運動意欲を高める。

### (4) 指導主事等による学校訪問の強化

指導主事が学校を訪問した際に、各校の現状・課題をヒアリングするとともに、改善策をについて指導・助言を行うことを改めて徹底する。